

## 巻 頭 言

### 52という数字

長縄 慎二

本誌も52号ということで、それにちなんだ巻頭言を書かせていただきます。

52という数字は、1、2、4、13、26、52の倍数であり、みなさんが真っ先に思いつくのはトランプの枚数（ジョーカーを除いた）ではないだろうか。また一年間が52週であることを思いつく人もいらっしゃるであろう。ベトナム戦争世代の方は、アメリカのB-52爆撃機を思い出されるかもしれない。仏教においては菩薩の52位というのがあり、悟りの段階が52あってその最高の段階52位は妙覚、仏覚と呼ばれ、仏と同一とされる。

数字が好きな私は52と聞くと13の4倍というのがまず認識される。13は西洋では忌み嫌われる傾向がある。これは諸説あるものの、最後の晩餐で裏切り者のユダが13番目に席についたからという説がもっとも有名である。キリストが処刑されたのが13日の金曜日であるという俗信からホラー映画“13日の金曜日”に代表されるような不吉なものが多く作られ、皆が恐れる数字になったのかもしれない。

一方、13をいい数字として考える人達もおり、アメリカは独立の際は13州から始まっているし、日本でも冥界の審理に関わるのは十三仏（不動明王、釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩、地藏菩薩、弥勒菩薩、薬師如来、観音菩薩、勢至菩薩、阿弥陀如来、阿閼如来、大日如来、虚空蔵菩薩）とされている。十三回忌は、十二支が一巡することを基準にしていて、特に縁起が悪いわけではない。アポロ13とかゴルゴ13とかは、いい数字のようにも悪い数字のようにも思える。

このように物事は見方によっていいようにも悪いようにも思えてくる。人間万事塞翁が馬、なにが幸いして、何が災いするかわからない。そもそも幸いも、長期的には災いかもしれないし、またその逆もありうる。

本誌の主題である健康文化についても、昨今流行りの健康にいいとされる食べ物やサプリメントも、効果は摂取する人によるし、時期によるし、量による。

もちろん体の健康だけでなく、こころの健康も大切である。しかし、この“こころ”の健康にもいいこと、わるいことはいろいろあろうが、これも効果は時と場合による。すべてはほどほど、適当、バランスが大切である。

さてさて、52という数字は、漢字でも、アラビア数字でも、見れば見るほど、バランスがよく見えてくる不思議な数字である。

本52号が皆様に健康とこころの平安を少しでもお届けできれば幸いである。

(名古屋大学医学系研究科 総合医学専攻  
高次医用科学講座 量子医学分野 教授)

